緑化樹として需要の増大している山採り主体の樹種における生産技術の確立

【研究概要】

近年の都市緑化では、アオダモ、ナツハゼなどの山採り主体の樹種の利用が増えている。しかし、この樹種の中には、生産者圃場での生育不良がみられる樹種や需要増加のために苗木の入手が困難な樹種もある。そこで、樹種の安定生産のための繁殖技術や栽培技術を確立するとともに、生産に適した優良母樹を選抜することを目的に試験を実施した。

（１）挿し木繁殖において、春季の休眠枝挿しでは、いくつかの樹種はミスト環境下で比較的高い発根率を得られた。夏季の緑枝挿しでは、昨年度と比較して発根率が低下する樹種があり、気象条件や母樹の状態などが発根率に影響する可能性がある。

（２）pHを段階的に調整した土壌でポット栽培し、いくつかの樹種では生育の土壌pHと生育に一定の傾向が認められた。